

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292400116		
法人名	社会福祉法人奥津軽会		
事業所名	グループホームなかさと		
所在地	青森県北津軽郡中泊町大字中里字亀山434番地1		
自己評価作成日	平成30年12月28日	評価結果市町村受理日	平成31年4月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様は在宅生活の時と違い、外出の機会が極端に少なくなっているため、季節を肌で感じ取ってもらえるよう、余暇活動では季節毎の行事や手工芸で季節の作品を作って楽しんだり、地域の人達と交流し、地域の一員であることを忘れないよう、地域の行事に参加しています。
 行事以外では個別ケアに担当職員が取り組み、利用者様と職員の信頼関係を構築できるよう、ホームでの生活を満足していただけるように利用者様の思いに寄り添い、全職員が支援方法を模索しながら支援しています。
 2ヶ月毎に「なかさとだより」を発行し、ホームでの様子をご家族様にお知らせすると共に、県外在住のご家族様が多いので、その都度、電話連絡を通じて状態説明を行い、連携に取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設後間もないホームであるが、設立者の地域への思いや地域資源に関わりながら、地域貢献に取り組んでいる。ホーム独自の「利用者様の日々の生活に寄り添い、今日も一日でいいいい」の理念を掲げ、丁寧な介護や日々理念を意識したサービス提供に努めている。
 地域住民とは積極的に交流を図っており、万が一の場合には、協力を得られる体制を整備している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号
訪問調査日	平成31年2月20日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者様の日々の生活に寄り添い、今日も一日でいねいに」を介護理念に掲げ、毎朝、申し送りで斉唱することにより、理念の周知徹底を図り、サービス提供に反映させている。	開設後間もないホームであるが、管理者と職員は地域のために貢献したいという気持ちを持ち、「利用者様の日々の生活に寄り添い、今日も一日でいねいに」というホーム独自の理念を意識してケアの実施に努めている。また、ホーム内外の行事等の関わりから地域密着型サービスの役割を反映させ、理念の共有と実践に日々努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の夏祭りや地域の祭り見学・参加、町民祭等に積極的に参加し、地域住民と交流を図っている。	ホームでは隣接する施設と合同で運動会や法人の夏祭りを開催し、地域の人々の参加があり、利用者にも喜ばれている。また、認定こども園や婦人部、三味線愛好会等の受け入れのほか、町民祭への参加を通じて、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様が以前から利用している地域の床屋や美容院を利用することで、地域との絆を断ち切らないように支援している。また、利用者様の現在の状態を理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、運営推進会議を開催している。会議の出席者からの質問や提案を参考・課題として、今後のサービス向上に繋がるように努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、町担当課職員や地域包括支援センター職員、民生委員、地域住民代表、利用者、家族等が委員となり、開催している。会議ではホームの料金説明や行事等の報告をしているほか、防災訓練への参加を促す等の取り組みを行っている。会議で出された意見等は、今後のサービス向上に役立てていくように努めている。今後は地域包括支援センターへ出前講座を依頼し、地域住民に対する勉強会を行うことを検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターで開催している、地域ケア会議や各種研修に職員が積極的に参加し、行政担当者に疑問や分からない事は指導していただいている。また、他の事業所の取り組みを聞き、ケアサービスの向上に繋げている。	運営推進会議には町担当課職員や地域包括支援センター職員の参加を得ており、ホームの実情を理解してもらうと共に、開設にあたっての相談や問題解決に向けて、日頃から行政と連携を図っている。また、今後は「自己評価及び外部評価結果」、「目標達成計画」を提出し、報告を行う予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の自動ドアの開閉は、日中は自動の状態になっている。現在は身体拘束のマニュアル作成には至っていない。	調査時には身体拘束に関するマニュアルや同意書等は整備されていた。職員は介護現場での就労経験があり、身体拘束による身体的、精神的弊害について理解している。また、無断外出時に備えて、近隣から協力を得られる環境にあるほか、運営推進会議でも協力の働きかけを行っている。	平成30年度介護報酬改定により、身体拘束等の適正化のための委員会の設置が義務化されているので、運営推進会議や職員会議を活用しながら職員への周知を徹底し、早急に体制を整えることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在、高齢者の虐待について学ぶ機会がなかったが、ホーム内での虐待が見過ごされないよう、表情の観察と週3回の入浴時に皮膚状態等を観察している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員は権利擁護について理解している。入所前から制度を活用している利用者様があったが、他の職員はホーム開設後に勉強の機会がなかったため、来年度は積極的に勉強会を開催し、全職員が制度を理解して、必要のある利用者様が活用できるように勉強していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書と契約書を用いて説明を行い、ご家族様の疑問や不安に思っている事を十分に理解し、説明を丁寧に行い、その後、契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様が不安に思っている事・要望・提案等をその都度聞き、できる限り迅速に対応している。	運営推進会議への参加等により、利用者や家族等が外部に意見等を出せる機会を確保している。また、出された意見等には速やかに対応できるよう、管理者や法人園長に報告する体制となっている。今後は、玄関前への意見箱等の設置を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや職員会議で職員の提案を聞き、職員間で話し合いをして、必要な事は仕事に反映させている。	月1回の職員会議で業務改善策等、意見交換をし、意見や情報を共有しながら話し合い、働きやすい職場づくりに努めている。出された意見は法人本部へ提案し、勤務時間の変更等、改善された事例もあり、職員の意見が反映される仕組みを整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の得意分野を活かした役割や、やりがい、向上心を持って職務に励むことができるようにしている。また、勤務時間や夏季休暇、有給休暇の取得ができるよう、環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部研修に参加して得た事を内部研修として行い、情報・知識を共有して、各職員のスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム交流会やその他の研修会に参加して、他の事業所職員と情報交換等を行い、日々のサービス提供において気づき等から、サービス向上に繋げている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が不安に思っている事や疑問等をゆっくりと傾聴し、不安なく、安心してホームで過ごせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	県外在住のご家族様とは入所申し込みの相談時から電話連絡を行い、信頼関係を築き、入所に至っている。ご家族様からの疑問や要望にはその都度、対応している。また、その他のご家族様も利用者様との面会時や電話等で疑問等に対応し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の状態等を見極め、ご本人様とご家族様の思いを聞き、サービス提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の動作や表情等を観察し、言葉に表せないことを導き出し、思いを共感し、不安等を払拭して、穏やかに生活できるように支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と生活環境や身体状況等の情報を交換し、ご家族様が利用者様のことを心配することなく、生活できるように対応している。また、利用者様がご家族様との疎外感を感じることなく過ごせるよう、ご家族様の協力を得られる関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様やご家族様の要望により、以前から利用している馴染みの美容院や床屋を利用し、地域の人達とふれ合い、利用者様にいつまでも地域の一員であると感じてもらえるように努めている。また、以前から買い物している店での買い物支援も行っている。	入所時のアセスメントや担当職員の記録、日々のコミュニケーションから得た情報を職員間で共有し、把握するように努めている。また、これまでの習慣を継続できるよう、馴染みの理・美容院、自宅への一時帰宅等の対応のほか、電話・手紙のやり取りも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の状況を観察して、職員が積極的に声がけし、利用者様の共通の話題等を提供して、共に笑って過ごせるように努めている。また、余暇活動等を通して他の利用者様の特技等を認め、互いに尊重しながら生活できるよう、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の際にご家族様には入院や退所等、今後想定できる事を説明し、サービス終了後も相談・支援等をできる限り手伝っていくことを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を中心にケース会議で利用者様の意向・希望等の情報を共有し、全職員が利用者様の思いに寄り添い、サービスを提供できるように努めている。	職員は利用者とのコミュニケーションを第一に考えており、日々のケアの中で話を聞き、利用者の希望や意向を把握するように努めている。また、家族等の面会時等にも、情報を収集し、より良いケアに向けて反映させるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様やご家族様、在宅時の担当ケアマネ様より生活歴やライフスタイル、趣味等を情報収集し、これまでの生活を大きく変えることなく、日々過ごせるようにサービスを提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を観察し、個別に入力して生活のリズムを全職員が把握できるように努めている。また、利用者様のできる事や理解力を把握し、日々のサービス提供に繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族様の意向等を聞き、介護計画に反映させている。また、ケース会議で利用者様の課題の有無を検討し、介護計画に基づいたサービスを提供できているか、評価している。	介護計画作成時には利用者がある人らしく暮らし続けることができるよう、可能な限り利用者の話を聞くように努めている。また、全職員の気づきを話し合い、ホームの理念を再確認しながら、個別具体的な介護計画の作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状態を観察し、ケース記録に入力し、連絡ノートを活用しながら全職員が内容を把握しているほか、管理者が月毎に評価を行って、介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や買い物、お墓参り等は、利用者様やご家族様の要望に柔軟に対応し、サービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議においてご家族様や利用者様、行政、地域包括支援センター、地域住民、民生委員等と意見や情報を交換し、活用できる情報を収集して支援できるように取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様とご家族様の希望を伺い、希望に沿った医療機関を受診できるよう、かかりつけ医に情報を提供し、適切な医療が受けられるように支援している。また、初診時や検査・説明等にはご家族様に同行を依頼して、病状や治療方針を共有し、支援している。	利用者のこれまでの受診状況を把握し、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。また、ホームで通院支援を行い、受診結果の伝達方法も家族等の了解を得ており、情報の共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は同じ敷地内にある小規模多機能型居宅介護の看護職員と日頃から情報を共有し、利用者様の状態に変化が見られた時は、看護職員に相談して受診の必要性を見極めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の中で入院した方はいないが、入院時には連携できるように、病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所までできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化、終末期について、利用者様やご家族様に説明を行っている。今後、ホームで早い段階から利用者様やご家族様と話し合いを行い、方針を共有し、チームで支援できるように取り組んでいく。	終末期の対応については入所時に文書で説明している。日常的な健康管理や急変時の対応について、利用者や家族等、医療機関とも話し合いをしており、意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網はできているが、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については年2回の予定で(昼夜想定)、現在、昼を想定した火災避難訓練を行い、災害時に備え、地域住民と協力体制を築いている。今年度中に夜間の災害を想定した避難訓練を予定している。	開設後、火災発生時の避難訓練を1回実施しており、利用者を適切に避難させることができるよう、課題解決に向けた取り組みを行っている。ホームでは消防署だけでなく、住民や警察からの理解、協力を得られるように働きかけを検討している。また、今後は非常災害時に備えて、食料や飲料水を用意することを検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービス提供以前に、利用者様は人生の大先輩であること、職員はサービスを提供させていただいていることを忘れないようにし、言葉で人格を傷つけないように取り組んでいる。その場面々々で適切な声かけや笑顔での対応を心がけている。	利用者の尊厳を大切にしており、否定せず、丁寧に利用者から話を聞くように努め、不快のない声かけに努めている。また、職員は介護時及び個人情報の取り扱い等、利用者のプライバシーに配慮して業務を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の性格や意思伝達の力量を考慮し、日頃から表情・動作等を観察することで、利用者様の伝えたい事が理解できる場面が多くなっている。職員は声かけ等で、利用者様の伝えたい事を導き出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの1日の流れは決まっているが、その時々で声かけし、利用者様の希望に沿った過ごし方ができるように配慮している。余暇活動は特に強制することなく、参加の有無の決定は利用者様が行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれは、生涯忘れることなく行ってほしいと思い、支援している。整容はさりげない声かけで対応している。また、地域との関わりが無くならないよう、馴染みの理・美容院を利用できるように送迎や連絡・調整を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前・食後のテーブル拭きやお盆拭き等、無理のない範囲内で手伝ってもらっている。昼食は利用者様と職員と一緒にテーブルで、会話を楽しみながら同じ食事を摂っている。また、食べこぼしや、むせ込みがないか見守りをしている。食べられない物や苦手な物は代替品を提供している。	献立・食材・栄養管理は業者に依頼しており、嫌いな物がある利用者には、代替品で対応している。祝祭日の特別食等、利用者の希望や季節に合わせて食事を提供できるように工夫している。また、職員と利用者が一緒にテーブルで昼食を摂り、家族のように楽しんでいるほか、利用者の状況に応じて、テーブル拭き等を職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量はパソコン入力し、全職員が把握して、利用者様個々の支援に繋げている。同法人施設の栄養士が常勤で勤務しているほか、委託先の栄養士も勤務しているため、その都度、指導・助言を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがい・歯磨きを実施している。物忘れの進行により、一時的に義歯の洗浄等を忘れる利用者様には声がけを行い、口腔ケア内の清潔保持できるように努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様個々の排泄パターンを把握している。パンツ型紙オムツや尿取りパッドの使用については利用者様の意見を聞き、職員で話し合い、見直している。また、夜間のポータブルトイレ使用の必要性等は、利用者様の思いを聞き、身体機能も加味して見直している。	排泄は自立している利用者が多いが、トイレ誘導が必要な利用者もおり、排泄チェック表を記録して、把握し、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。また、トイレ誘導の声かけは利用者の羞恥心に配慮し、声の大きさや言葉遣いに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を職員が理解し、便秘が続いた時は薬にだけ頼るのではなく、果物の摂取・乳製品の摂取量等を考慮したり、運動を取り入れて、腸の働きが活発になるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	曜日や入浴時間は決まっているが、週3回、入浴の順番等は利用者様の要望を取り入れて行っている。利用者様個々の状態により、足浴やシャワー浴等、臨機応変に対応している。	入浴は週3回、利用者の意向を確認しながら、状態に合わせて、個別に対応している。日々のコミュニケーションの中から、利用者の入浴習慣や好みを把握し、一人ひとりに合わせた入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	可能な限り、利用者様の意思に任せており、個々の生活リズムを把握し、眠れない利用者様はその都度、原因を見極めて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者様の病歴等を理解し、薬の内容等を把握できるように取り組んでいる。飲み忘れや飲み違いを防ぐよう、チェック体制を取っている。服薬により状態変化がないか、観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様個々の希望や特技、生活歴、性格等を鑑みて、役割をお願いしている。利用者様に余暇活動の提案をしてもらい、利用者様個々の考える力を導き出している。また、嗜好品についての要求は、他の利用者様を考慮し、過度にならないように利用者様と話し合い、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会が少ないため、気分転換や地域の一員であることを忘れないために、地域の行事への参加や隣の施設との交流、散歩等、随時、行っている。また、ホームで対応できない部分はご家族様に協力をいただいている。	春から秋には玄関前にプランターを並べ、利用者は普段から散歩のついでに花の世話をする等、気軽に外出することができる環境であり、気分転換を図っている。また、家族の協力も得ながら、利用者の希望に沿えるよう、外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理はホームで行っている。利用者様から買い物の要望があった時は、所持金の台帳の残高を伝えている。日頃、自分の財布からお金を出す行為がほとんどないため、ホーム内行事では利用者様に少額を渡し、自ら支払うようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙等は利用者様の意思に任せている。利用者様宛の手紙の開封は自ら行い、職員が読むことはない。電話での会話は居室や広場等、利用者様個々に任せている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられ、外を眺められるようにカーテンを開け、日光や風、窓を開けて外の空気を吸う等、体で季節を感じてもらっている。	ホーム内は天井が高く、天窓から入る日差しで明るく、大きな窓からは開放的な雰囲気を出している。床暖房設備やパネルヒーター、エアコン等で適切な温・湿度を保てるように取り組んでいる。また、家庭的な家具を配置しているほか、写真・季節の作品等の飾り付け等から、季節を感じられるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同の場所はいつも自由に利用している。食事の際の席は利用者様同士の関係性を考慮し、時々、席替えを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にご家族様に説明し、馴染みの物は持って来てもらっている。居室の飾り等は自分でできない利用者様には職員が助言等を行い、手伝っている。	入所時にできるだけ馴染みの物を持って来てもらうように声がけし、家族の写真や仏壇等の持ち込みがある。その人なりに居心地良く過ごせるよう、職員は居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境面を整備し、安楽に移動等ができるようにしている。		